

[調査の概要]

1 調査の目的

本調査は、平成25年4月から試行実施している本館の開館延長及び閲覧席開放について、市民のニーズがどの位あるのか、また、どのような運営形態を望んでいるのか、どの年齢層が利用を要望しているのかなどを把握し、今後の行政施策の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査設計

- (1)調査地域 入間市全域
- (2)調査対象 入間市在住の13歳以上の男女個人
- (3)標本数 2,000人
- (4)抽出方法 住民基本台帳による等間隔無作為抽出法
- (5)調査方法 郵送(配布・回収)によるアンケート調査
- (6)調査期間 平成26年4月10日～平成26年4月25日

3 回収状況

- (1)配布数 2,000件
- (2)回収数 750件
- (3)回収率 37.5%

①年齢別の基数と回収率(人口は13歳以上)

年 齢	人口比率		基礎比率		回収率	
	人 口	比 率	基 数	比 率	発送数	回収率
合計	133,668	100.0%	750	100.0%	2,000	37.5%
10歳代	10,534	7.9%	49	6.5%	173	28.3%
20歳代	15,464	11.6%	45	6.0%	272	16.5%
30歳代	19,184	14.4%	81	10.8%	264	30.7%
40歳代	22,506	16.8%	112	14.9%	375	29.9%
50歳代	18,489	13.8%	131	17.5%	289	45.3%
60歳代	23,386	17.5%	180	24.0%	353	51.0%
70歳以上	24,105	18.0%	148	19.7%	274	54.0%
無回答	-	-	4	0.5%	-	-

②地区別の基数と回収率(人口は13歳以上)

年 齢	人口比率		基礎比率		回収率	
	人 口	比 率	基 数	比 率	発送数	回収率
合計	133,668	100.0%	750	100.0%	2,000	37.5%
豊岡	49,093	36.7%	246	32.8%	759	32.4%
東金子	15,233	11.4%	89	11.9%	235	37.9%
金子	9,003	6.7%	51	6.8%	139	36.7%
宮寺・二本木	9,965	7.5%	51	6.8%	148	34.5%
藤沢	31,080	23.3%	194	25.9%	472	41.1%
西武	19,285	14.4%	104	13.9%	247	42.1%
無回答	-	-	11	1.5%	-	-

4 標本誤差

今回の調査の回答結果から、調査対象となる母集団全体(入間市に住む満13歳以上の男女)の比率を推定するため、単純無作為抽出の場合の標本誤差の算出数と早見票を以下に示す。

統計上の標本誤差は、①比率算出の基数(サンプル数)及び②回答の比率(P)によって誤差幅が異なる。今回の調査の誤差幅は以下の早見表から±3.4%以内となる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N: 母集団 (=13歳以上の入間市民数)
n: 回答サンプル数 (=750)
p: サンプルの回答比率

<標本誤差早見表>

回答比率(P) サンプル数	5%または 95%	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
100	±4.4%	±6%	±8%	±9.2%	±9.8%	±10%
200	±3.0%	±4.2%	±5.6%	±6.4%	±7.0%	±7.0%
500	±2.0%	±2.6%	±3.6%	±4.0%	±4.4%	±4.4%
600	±1.8%	±2.4%	±3.2%	±3.8%	±4.0%	±4.0%
750	±1.6%	±2.2%	±3.0%	±3.4%	±3.6%	±3.6%

※上表は、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出。この表の計算式の信頼度は95%である。

5 調査項目

- (1) 施設利用について
- (2) 開館時間延長について
- (3) 閲覧席開放について
- (4) 分館における開館時間延長等について
- (5) 意見・要望について
- (6) 基本的な属性について

6 累計結果の見方

- (1) 表中のNとは、回答者総数のことである。
- (2) 割合は100.0%として算出し、小数点以下第二位を四捨五入したため合計が100.0%にならない場合がある。
- (3) 一人の回答者が複数回答を行う設問では、比率の合計が100.0%を超える場合がある。

7 総評

今回のアンケートに関しては、質問数が若干多かったためか、回収数が当初想定した数には到底及ばない結果となりました。年代別では、50代、60代、70代以上が総回収率を上回ったのに対して、40代以下は、総回収率をかなり下回った結果となり、特に、10代、20代が少なかったことは憂うべき現状と考えます。

また、地区別では、西武、藤沢が若干高く、続いて、東金子、金子の順で、豊岡が最低の回収率でした。

このアンケートの趣旨からすれば、本館利用者の声を中心に集約したい部分もありましたので、この結果は少し残念な結果であり、集計にも少なからず影響したものと考えられます。

また、図書館利用に関しても、利用している市民より利用していない市民からの回答の方が多く、実際の利用者からの声はどのくらい届けられたのか多少の疑問が残ります。

こうした結果を踏まえて、各質問の回答を通して市民の声を様々な角度から分析検討した内容を以下のとおり記載します。

図書館の利用に関しましては、利用しない理由として、「時間がない」が一番で、次に、「利用する必要がない」となっており、現代人の多忙さや、多忙ゆえに、情報収集には電子機器を使用した電子情報収集に頼っている状況が読み取れます。

反対に、図書館を利用する市民については、利用頻度が、年に数日が一番多く、図書館の市民への浸透度はまだまだ高くないと思われれます。利用する曜日も平日が圧倒的に多く、祝日の利用は大変少なく、市民への祝日開館等のPR不足かと思われれます。

次に、図書館の利用目的に関しては、やはり、本等の貸出・返却のためが圧倒的に多く、次が読書のためで、調査・研究や情報収集や相談よりも自主学習の方が多し点は、今般の開館時間延長や閲覧席開放も大いに関わっているものと考えられます。

開館時間延長に関しては、延長措置を知っていた市民が全体の1/3に対して、知らなかった市民が2/3もいたことは図書館が行うべきPR活動の在り方を見直さざるを得ないと思われれます。

したがって、開館時間延長を利用してみたい市民の数も少なく、図書館利用同様、「時間がない」ため利用しない市民が非常に多いことは至極当然の結果と言わざるを得ません。しかしながら、開館時間延長の今後の継続に関する回答は約5割の市民が継続を希望しており、開館時間を延長してきた試行措置はある程度市民に認知されたものと考えられますが、継続を希望しない市民の理由の多くが、「必要性を感じない」、「通常開館で利用可能」、「利用しない」などであることや、「経費の無駄」や「人件費がかかるため」とのことから財政面も含めて、開館時間延長の継続に疑問を呈する市民も少なくないことから、今後の継続に向けての検討の中ではもう一度経費の見直しや人員配置の見直しをしなければならないと思われれます。

また、開館時間延長時間は午後8時までが圧倒的に多く、現状が妥当と判断されたものと考えます。さらに、分館での開館時間延長の希望も半数を上回っており、そのほとんどが西武分館、藤沢分館を希望しています。

最後に、閲覧席開放につきましては、知らなかった市民がほとんどで、今後の利用希望もほとんどない状況です。

したがって、閲覧席開放の今後の方向性としては、市民の約半数が継続を希望していない点から、その必要性についても今後十分検討し直す必要があるものと判断されます。